



Woodwind Syllabus

from2022

**木管楽器
受検要項
(参考抄訳)**

2022 木管楽器実技検定 受検要項

目次

1. はじめに

ABRSM について	3
資格認定における詳細	4
実技グレード検定について	5
UCAS ポイント（英国）	6
資格認定規定（英国以外のヨーロッパ）	6
資格認定規定（それ以外の国）	6

2. 実技グレード検定

シラバス	7
検定規定集	7
不正受検と不正運営	7
受検資格	8
受検申込み	8
受検へのアクセス（特別な配慮の必要な受検者）	8
検定の配点	8
検定の実際	9
特別な配慮	10

3. 木管楽器実技検定 2022

はじめに	11
実技検定：課題内容	11
・ 楽器	11

・ 課題曲	13
・ スケールとアルペジオ	16
・ 初見演奏	17
・ オーラル テスト	18
オーラル テスト詳細	19

4. 評価と採点及び違反行為

評価の目標	26
評価の配点	26
評点の区分	26
包括的評価について	27
評価	27
違反行為	27
採点基準	27

5. 検定の後に

結果	28
アピールとフィードバック	28

6. その他の検定

木管楽器プレップ テスト	29
パフォーマンス グレード	31
音楽理論	32
プラクティカル ミュージシャンシップ	33
ARSM	35
DipABRSM, LRSM, FRSM	36
曲目プログラム用紙（提出用）	37

1. はじめに

ABRSM について

ABRSM は音楽への情熱を基に指導者や学習者を長い間サポートしてまいりました。その中の一つがグレード検定です。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

グレード検定は楽器だけではなく、声楽、ジャズ、音楽理論そしてプラクティカル・ミュージシャンシップなど、多岐に渡って行われます。シラバスは基本的な音楽スキルー聴く力、演奏力、読む力、書く力、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に、学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることが出来ます。

検定は、学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず、学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることが出来ます。さらに検定で音楽の目標に到達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSM は学習者にとって、この検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は、親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮するよう努めます。また、検定員は明快で分かりやすい基準に基づいて、信頼できる客観的なおかつ一貫性のある評価を行います。最後に受検者は価値のあるフィードバックとなる採点用紙を受け取り、全ての合格者には、合格証書が渡されます。

私たちは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みになり、役に立つものとなるよう願っております。皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

私たちの使命

ABRSM の使命は学習者が音楽を学んでいく過程で達成感を得られるよう導いていくことにあります。私どもはこれを英国王立音楽大学4校（王立音楽院、王立音楽大学、王立北部音楽大学、王立スコットランド音楽大学）と提携して行なっています。ABRSM は音楽の持つ芸術的価値、また音楽教育の重要性に強い情熱を傾けており、音楽と関わっていくことによって、人々は類のない素晴らしい経験をし、生涯に渡ってその恩恵を受けとることが出来ると信じております。

ABRSM は世界の音楽教育を先導しており、その評価体系、出版物、そして指導を通して、音楽を教え、学び、創り、そして楽しむ際に必要な知識や手段を世界の人々に提供しています。

ABRSM の奨学金、寄付、後援そしてパートナーシップは、あらゆる年齢の人々が音楽と出会い、その潜在能力を十分に発揮する機会を作り出しております。また私どもの全て活動は、学習者と指導者の「音楽の旅」をサポートする目的のために行われております。

ABRSM とは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。

www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ・ ABRSM 音楽実技におけるエントリーレベル資格(イニシャルグレード)(エントリー3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル1資格(グレード1, 2及び3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル2資格(グレード4と5)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル3資格(グレード6, 7及び8)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、ABRSM 検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項(シラバス)は2022年から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。

特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがあります。その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。この要項の最新版は www.abrsm.org/exam にて閲覧可能です。

実技グレード検定について

資格認定の目的

実技検定試験は学習者が音楽を演奏する際に必要な技能を段階的に身につけられるように作られています。各グレードにはそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。受検者は受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取りますが、これはこの先、引き続き学んでいく過程において貴重な指針となるものです。

受検資格

実技検定受検においては年齢の制限はありませんが、グレード6から8を受験するには受検資格条件を満たす必要があります。詳細は英文10ページに載っています。この実技検定では異なる年齢、経歴、音楽への興味や関心に沿って幅広い課題曲が選択出来るよう工夫されています。また私どもは、すべての受検者が公正な評価を受けられるよう、要望に沿った受検会場の手配や調整を行っています。

構成

各実技検定試験は包括的な音楽スキル・テクニック、読譜、聞く力、音楽的な知識、理解力及び創造力を評価するように構成されています。全グレードにおいてこれらのクリエイティブな能力はレパートリーの演奏とそれを補完するテストによって示されます。これらのスキルは総合的に、受検者を次のグレードの受検、進学、就職、及び他の芸術活動に繋げていくことが出来るのです。

受検者はレパートリーリストから三つの課題曲及び指定されたテクニック課題を演奏し、初見テストの楽譜やオーラル・テストの質問に対応することを求められます。要素ごとの評点はそれぞれ違った配分(三つの課題曲は全て同じ)であり、各要素別に評価されます。

学習の道すじ

ABRSMの実技グレード検定はイニシャルグレードからグレード8まであります(訳注：木管楽器ではイニシャルグレードは実施していません)。それぞれのグレード検定は、実技演奏の際に求められる知識や解釈を正しく評価できるように作られています。楽器をどのくらい上手に弾きこなしているか、曲目をどの程度きちんと理解出来ているか、という観点からばかりでなく、その演奏の土台となっている知識や解釈、技能を測るテストなども合わせて行い、オールラウンドに判定していきます。各グレードを受検する際に習得した技能、技量があれば、次のより高いグレードや他の芸術部門へと進んでいくことが可能となるのです。

実技検定試験はイニシャルグレードからグレード8まで段階的にレベルが上がっていくように作られていますが、下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありません。

より高いグレードでは、音楽の要素を完全に理解していることが十分に納得のいく演奏をする上で大変重要になってきます。音楽理論のグレード検定においては、音楽記号についてその意味を答え、かつ正しく使えるかどうか、あるいは抜粋された曲の一部分に関する質問や音楽の要素についての質問に答えられるかどうか等を判定、評価していきます。

知識や解釈をより深めるだけでなく、学んでいる曲の音楽的語法を習得し表情豊かな演奏が出来ているかどうかを評価する Practical Musicianship exam という検定もあります。グレード6、7、8を受験するには、音楽理論、Practical Musicianship、あるいはジャズ楽器のソロ演奏でグレード5あるいはそれ以上のグレードを事前に習得していなければなりません。（訳注：現在ジャズ検定は日本では行われておりません。）

グレード8を終了すると、より上のレベルの資格、すなわち、ARSM、DipABRSMに進むことが出来ます。実技演奏のみのARSM検定はリサイタル形式で、プログラム作りと選曲の幅を広げることにより重きを置きながら、より高い演奏技術、より深い曲目の解釈を目指し、グレード8を終了後DipABRSMの準備が出来るようになるまでの間の橋渡しの役割を果たしています。DipABRSM、LRSM、FRSMでは実技演奏に加えて、音楽的知識や理解、作曲家について、あるいは音楽様式や時代背景などを予めどのくらい調べてあるかを問う口頭試験が行われます。詳細はセクション6に記載されており、又 www.abrsm.org/diploma も合わせてご覧下さい。

受検資格の事前取得

高レベルでの満足度の高いパフォーマンスの為には、その音楽の要素を十分に理解していることが肝要です。私たちの理論検定は受検者が音楽用語を判別、活用し、又音楽の抜粋を理解し設問に答えることができる様に作られております。又、プラクティカル ミュージシャンシップ（訳注：実技ソルフェージュ）においては、受検者が学習しているレパートリーの音楽的素養を理解すると同時に表現や解釈についてのスキルを獲得することを目指します。従って、グレード6以上の実技検定受検（パフォーマンスGも含む）には理論検定、あるいはプラクティカル ミュージシャンシップG5以上の事前取得が必要となっております。

英国における UCAS ポイントの規定

英文6～7ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。（訳注：合格証に記載され、英国系学校への進学の際、加点される。）詳細は、以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

英国以外のヨーロッパにおける UCAS ポイントの規定

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。

その他の国の UCAS ポイントの規定

各国のポイントについては以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

2. 実技検定

2022年 シラバス

有効期間

この要項（シラバス）は2022年から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。

シラバスの変更

すべての変更－マイナーな変更点を含む変更告知－は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。

www.abrsm.org/syllabuscorrections

移行期間

シラバス変更の一年目においては、前のシラバスを用いての受検が可能です。移行期間についての詳細は、以下のサイトを参照のこと。www.abrsm.org/overlap

2022年12月31日まで全世界にわたり、木管楽器受検者は2018年～2021年シラバスからの課題曲、スケール課題を演奏することが可能です。但し新旧2つのシラバスを同時に使用することはできません。

次回のシラバス

次の木管楽器シラバス更新日は、現時点において未定です。更新がある場合、事前にウェブサイトにてお知らせします(www.abrsm.org/syllabusupdates)。

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。www.abrsm.org/examregulations

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

●**不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。

●**不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。

受検資格

木管楽器のグレード実技検定は8段階(デサントリコーダーのみグレード1から5まで)に分かれています。受検における年齢制限はなく、グレード1から5まではどのグレードからでも受検できます。グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

●ABRSM 音楽理論 グレード5以上

●同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上

●同ソロのジャズ楽器 グレード5 (訳註：日本では行われておりません) 代替条件を含む詳細については www.abrem.org/prerequisite を参照のこと。

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス（特別な配慮を必要とされる方）

ABRSM は、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

検定の配点

木管楽器の実技検定は課題曲演奏、スケール、アルペジオ、初見演奏、オーラル テストの6つの要素で構成されています。各々の配点については英文 155 ページを参照のこと。

検定の実際

検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。検定員はプログラムの前後にスコアの確認をすることがあります。その際は受検者又は伴奏者のスコアが使用されます。検定員の判断で演奏を途中で止める場合もありますが、それは演奏を評価するに十分と判断されたためです。

検定科目の順番

受検者は、どの科目からでも受検できますが、伴奏者が必要な曲や、デュエットの場合は最初に続けて受検するのが望ましいです。

チューニング

グレード1-5までは、必要に応じて検定前に指導者、又は伴奏者がチューニングをしても良いことになっています。それ以外のグレードでは受検者自身がチューニングを行います。検定員がチューニングをしてあげることはいけません。

譜面台

検定会場には譜面台が用意されていますが、受検者は自身で持参することも出来ます。高さの調節などは検定員が手伝う場合もあります。

楽器

ABRSM認定会場においては、アップライト/グランドピアノが用意されています。ピアノ以外の受検者は必要な道具（例：足台、フットピン）の携帯を忘れないこと。詳しくは次ページに記載されています

検定所要時間

下記に記された時間は受検者が、検定室へ入室、退室、また検定員がマークフォームに記入し終えるまでの大体の時間を示します。

グレード	イニシャル グレード*	グレード 1	グレード 2 & 3	グレード 4 & 5	グレード 6	グレード 7	グレード 8
時間 (分)	12	12	14	17	20	25	30

*木管楽器にはイニシャルグレードが含まれません。

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別の配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。

詳しくは以下を参照のこと。 www.abrsm.org/policies

3. 木管楽器実技検定 2022

はじめに

2022年からの木管楽器実技検定シラバスにはいくつか重要な変更点があります。

- レパートリーリストは、すべての木管楽器及びグレードにて新しい曲と既存の曲を含めたものに改訂されました。
- 各リストは音楽的な特徴により定められ、受検者がバランスの取れた曲を演奏するよう奨励し、様々なスキルを発揮できるようにしています。
- 無伴奏曲の演奏は必須ではなくなります。これらの曲は音楽的特徴によってそれぞれのリストに含まれており、受検者は最大2曲まで無伴奏曲を選択できます。
- グレード1-3において、デュエット曲を選ぶことが出来ます。
- リコーダー奏者が、種類の違うリコーダーで演奏しやすくなりました。
- 初心者用などに特別にデザインされた楽器に関する政策が更新されました。これらの楽器は、検定の課題をこなせるものであれば、全グレードで使用できます。

上記以外にも、検定に関するいくつかの重要な情報が更新、又は明確化されています。

スケール・アルペジオ、初見演奏及びオーラル・テストの内容に変更はありません。

実技検定：課題内容

このシラバスは2022年1月1日から、次のシラバス発行の告知があるまで有効です。

ここでは講師と受検者が ABRSM 木管楽器実技検定を受ける際に考慮すべき重要事項の概要を説明します。検定の事務事項などを含める詳細は ABRSM 検定の規定概要にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。(www.abrsm.org/examregulations)

楽器

実技検定シラバスは、標準的なオーケストラ楽器を基準として作成されています。ABRSM は多くの生徒たちが最初に、身体の小さい方/子供用に特別デザインされた楽器(訳注：派生楽器と称する)をもって音楽の道を歩み始めることを十分に承知しております。私たちは検定においてのこれらの楽器に関して、www.abrsm.org/policies にて提示されている規定に沿った使用を許可しております。

このような派生楽器のうち、標準的な楽器と違う調性の音が出る楽器の場合、グレード4から8のオーラルテストにおいて、オプションが制限される場合がございます(146—150 ページ参照)。

このシラバスで扱われているその他の楽器については、以下をご参照ください。

リコーダー：デサント(ソプラノ)とトレブル(アルト)は各々、別々の要項が用意されています。デサントリコーダーの受検はG1-5までの対応となります。

派生楽器オプション：

デサントリコーダー：3つの課題曲のうち一曲をテナーリコーダー又はトレブルリコーダーで演奏することが可能です(トレブルリコーダー用シラバスの該当するグレード課題曲から選択)。トレブルリコーダー課題曲から選ぶ場合、3つの曲目リスト(A,B及びC)から一曲ずつ演奏するという規定に沿って選択しなければなりません。

トレブルリコーダー：グレード1から5において、3つの課題曲のうち一曲をデサントリコーダーで演奏することが可能です(デサントリコーダー用シラバスの該当するグレード課題曲から選択)。デサントリコーダー課題曲から選ぶ場合、3つの課題曲リスト(A,B及びC)から一曲ずつ演奏するという規定に沿って選択しなければなりません。グレード6から8において、課題曲リストに表記されている場合に限り、3つの課題曲のうち一曲を同属楽器で(ソプラニーノ、デサント、テナー又はバス)で演奏することができます。受検者が楽器を途中で替える必要のある曲はプラスのシンボルで記され(例：**TREBLE+DESCANT**)、派生楽器オプションの選択とはみなされません。

このオプションを選択することによる加点及び利点は特にありません。他の検定内容はすべて申込時に選択した楽器で行われます。

クラリネット：この要項に掲載されている課題曲の大部分はB♭管用となっています。A管用の曲は要項に出版社が記載されています。課題曲の一部はC管用の伴奏譜が出版されており、課題曲リストに掲載されています。

バスーン：課題曲の一部は実音より4度又は5度上の伴奏譜が出版されており、課題曲リストに掲載されています。

サクソフォーン：ソプラノ、アルト、テナー、バリトーンサクソフォーンでの受検が可能です。E♭管とB♭管の課題曲は各々別のリストに掲載されています。その他の課題は共通です。

派生楽器オプション：全グレードにて、ソプラノ、アルト、テナー、バリトーンのサクソフォーンのうちひとつで申込んだ受検者は課題曲のうち一曲を他の三種類のうちひとつで演奏することが出来ます。このオプションを選択することによる加点及び利点は特にありません。他の検定内容はすべて申込時に選択したサクソフォーンで行われます。

一部の課題曲や曲集名に特定のサクソフォーンを示すものがありますが、これらは出版情報及び作品の意図を正確に表記するためのものであり、E♭管アルト又はバリトーンサクソフォンの課題曲リストにある全ての曲は検定にてどちらの楽器でも演奏できます。B♭管ソプラノ又はテナーサクソフォーンの課題曲も同様です。

課題曲

音楽家はレパートリーを広げ、演奏することによって、その楽器をマスターしていきます。課題曲が検定の中心であるのは、その理由からです。受検者は課題曲3曲を選び、演奏します。シラバスに選択されている課題曲は、ルネッサンス時代から現代まで、異なる伝統、様式が幅広く網羅され、3つのリストに収められています。

各リストから一曲を選ぶことにより、受検者はバランスの取れた選択をし、自身のスキルの幅を披露することができるのです。

●リスト A では、比較的速めの動きのある曲が選ばれ、技術的な機敏性が必要とされます。(運指とアーティキュレーションに重点がおかれます)

●リスト B では、より叙情的で、表情豊かな演奏が求められます。(ブレスとトーン)

●リスト C では、伝統、様式、音楽的特徴の面で幅の広い選択がなされています。

他の音楽家と一緒に弾くことも重要な音楽家のスキルであるため、殆どの課題曲は伴奏が必須となっておりますが、無伴奏での演奏に自信を持つための無伴奏曲も一部選択することができます。

このように幅の広いレパートリーを選択することによって、受検者が、心惹かれる音楽と出会い、それを学び演奏することを楽しんでほしいと願っております。

課題曲の組み合わせ：

受検者は課題曲 A,B,C 各リストから1曲ずつ選曲します。受検者は、その場にて検定員に曲目を告げなければなりません、この要項の巻末にある曲目リストに記入して提出する事もできます。

課題曲レパートリーは、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれておりますが、中には、技術的な理由(手の大きさなど)又は曲の内容(歴史的、文化的主題、歌曲の編曲の場合はオリジナルの歌詞の問題など)が必ずしも適切でない場合もあるかもしれません。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは www.nspcc.org.uk/onlinesafety

課題曲リストはパフォーマンス グレードと共通です。両方の検定を受検する方は、検定ごとに違う曲に挑戦してみることもできます。

伴奏/デュエット：スタディや無伴奏曲として出版されている一部の曲を除いて、課題曲の演奏には全てピアノ又は木管楽器の伴奏者が必要です。

グレード1から3の場合、一部または全部の課題曲においてデュエット曲を選ぶことができます。デュエットとして出版されている曲はリストに **DUET** と表記され、受検者が演奏するパートが指定されています。

一部のリコーダーデュエット曲は、上と下のパートで違う種類のリコーダーが指定されている場合があります。これらはリストに **MIXED DUET** と表記されています。同様に、一部のバスーンやサクソフォーンのデュエット曲も、それぞれ違う種類の同属楽器が指定されている場合があります。詳細は www.abrsm.org/syllabusclarifications にてご参照ください。

ピアノと木管楽器両方の伴奏譜が出版されている曲は **DUET/PIANO** と表記され、検定時にどちらの伴奏でも演奏が可能です。

受検者は自ら伴奏者を同伴する必要があるため、伴奏者は伴奏の場合のみ受検会場に入ることができます。受検者の指導者は伴奏者になれます(検定員は伴奏しません)。伴奏者は音楽的な流れを崩さない範囲で、伴奏の一部を単純化できます。録音された伴奏は使用できません。

ソロ：無伴奏ソロ曲はリストに **SOLO** と表記されています。無伴奏曲の演奏は必須ではありませんが、課題曲のうち2曲まで無伴奏曲を選ぶことができます。

楽譜と出版社：編曲の指定がされている場合(リストに‘arr.’又は‘trans.’表記)を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。ダウンロード版も可能です。詳細は16ページを参照のこと。

楽譜の解釈：記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に適った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけでなく、タッチ、音色の使い分け、拍感、フレージングなどが、どのようにコントロールされ、音楽全体を形作っているかが評価の対象になります。

繰り返し(リピート)：受検者は *da capo* と *dal segno* に気をつけること。ただし、特に指示がない限り2.3小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。

Ossias：オッシア(別の演奏法)が表記されている場合は、特に要項に記載されていない限り、受検者の選択にまかされます。

カデンツァとトゥッティ：カデンツァは要項に指示されている場合を除き、演奏されません。伴奏者はオーケストラのトゥッティ部分を省いてください。

暗譜：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

譜めくり：検定中、譜めくりに困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません（次の「コピー」の項をお読みください。）G6以上で、譜めくりがどうしても困難な場合は、譜めくり者（指導者など）を同伴することも可能です。検定員はいかなる場合も譜めくりはいたしません。また、グレード6-8に限り、伴奏の譜めくり者を伴うことが出来ます。

コピー及びダウンロード：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。（詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。）その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：検定用の楽譜は、楽器店やオンライン（ABRSM も含む；www.abrsm.org/shop）で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られております。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へ。www.abrsm.org/publishers

スケールとアルペジオ

スケールとアルペジオを弾くことは、安定した指の動きや流暢さなどの演奏技術を獲得する上で非常に重要です。これらを練習することで、学習者は音の高さや、音程を意識し、調やパターンを理解し、音色の質の安定感を増すことができます。初見演奏や、新しい曲の読譜の助けにもなり、又実際の演奏（ソロ/アンサンブル共に）での自信へとつながることでしょう。

暗譜：全グレードにおいて、暗譜で弾くこと。

指定範囲：特に記載されている場合を除き、その調の一番低い主音からはじめること。全て指定された範囲（とパターン）において上行、下行をしなければなりません。

リズム：全ての演奏は均一の音の長さで弾かれなければなりません。

パターン：アルペジオと属七(ドミナント7)の和音は他の指定のない限り基本形のみ。全ての属7の和音は、その調の主音で終わること。スケールとアルペジオのパターン例題は英文 19 - 22 ページを参照のこと。

アーティキュレーション：スラーの指示がある場合、必ず全体をレガートで演奏します。ブレス(息継ぎ)の場所は、出来るだけ流れを邪魔しない範囲で、受検者が決めます。

移調管楽器：スケールの指示は実音ではなく、表記された調で行われます。(例：B♭管のクラリネットの場合、ニ長調の指示に対して、演奏される音はハ長調のスケールとなります)。

検定の実際：検定員は、各グレードの出題範囲において、アーティキュレーションのバランスを考慮しながら、少なくとも1種類のスケール・アルペジオの演奏を指示し、通常、長調から短調へと進みます。その時、検定員は下記のポイントを指定します。

- ・ 調（短調を含むーグレード6－8の場合は旋律/和声の区別も）及び、弾き始めの音
- ・ アーティキュレーション

参考文献について：練習用に問題集が ABRSM から出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

速度：英文 15 ページのリスト（以下に抄訳あり）を参考にしてください。（項目）

スケール（半音階、拡張音域、全音階を含む）

アルペジオ（拡張音域を除く）

属七、減七、拡張音域アルペジオ

3度スケール

初見演奏

初見演奏の力をつけることには、多くのメリットがあります。調やリズムパターンを素早く把握し、新曲の演奏に自信をもって臨め、更に読譜力も高まるのです。アンサンブルでの演奏も、より豊かで楽しいものになることでしょう。

初見演奏の内容：受検者は、短い新曲を演奏します。受検者は、約 30 秒の予見時間が与えられ、その間試奏をしてもよいことになっています。

出題範囲：英文 23 - 24 ページの表では各グレードにおける要素の出題範囲が記載されています。

参考文献について：練習用に初見演奏問題集が ABRSM から出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

視覚障がいの受検者：視覚障がいの受検者（全盲あるいは弱視）は、通常のテストの代わりに拡大楽譜や、聴覚テストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneeds にて参照のこと。

オーラル・テスト

「聴くこと」は、音楽を創る基礎です。音楽がどのように成り立っているかを聞き取ることは、音楽力を伸ばすための決定的な要素となるのです。オーラル テストのスキルは音の長さ、演奏のバランス、拍感、リズム感などを把握するのに役立ち、更に音程感をつけ、暗譜、ミスを発見する

テストの内容：この要綱はすべての木管楽器において同様に適用されます。詳細は英文 143–150 ページをお読みください。

参考文献について：練習用に初見演奏問題集 (Specimen Aural Tests / Aural Training Practice) が ABRSM から出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

聴覚障がいを受検者：聴覚障がいの受検者は通常のテスト以外のテストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneeds を参照のこと。

*** 各楽器の課題曲リストなどは、英文シラバスを参照のこと。**

オーラル テスト 実技検定全科目共通です。

「聴くこと」は良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、

「内なる耳」で聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができるのです。レッスンの中でこのようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつくのです。

検定では

オーラル テストは、実技検定の一部です。

オーラル テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。

検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

英文144－150ページには、各グレードの課題が詳しく述べられています。

評価

いくつかのテストでは必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは評価に影響を与える場合もあります。

ここでは個々の設問で採点されたり、ミスの数で減点されるものではなく、質問に対する受検者の反応を総括的に評価します。評価の基準については55ページのリストを参照のこと。

聴音例題集

オーラル テストの実例は、「聴音例題集」(Specimen Aural Tests) 及び、「聴音指導書」(Aural Training in Practice) を参考にしてください。これらは、本部のホームページや日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障がいのある受検者

聴覚障がいを持つ受検者は、通常のオーラル テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneeds を参照のこと。

オーラル・テスト：イニシャル グレード

- A パッセージに合わせて、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせて間を置かずに拍をうってください。
- B 2小節の3/4 或いは4/4 拍子のフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いてそのリズムを打つこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しいリズムを打つこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する1つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション (スタッカート/レガート) についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード1

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション(スタッカート/レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード2

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、
①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート/レガート)、
②テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード3

- A 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子**を答えてください。
- B 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、
①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート/レガート)、
テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）
②調性(長調/短調)に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード4

A 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B 指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと。出題は、ハ(C)、へ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。

跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。

C1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

C2 C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを教えてください。

オーラル・テスト：グレード5

A 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題は、シャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。

C1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

C2 C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを教えてください。

オーラル・テスト：グレード6

A 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

C フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)

半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。

D1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。

D2 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください

オーラル・テスト：グレード7

A 二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B スコアを見て、下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

C1 フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)

半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。

- C2** 上記 C1 の終止形における **2つの和音を答えること**。範囲はトニック(主和音-I)、サブドミナント(下屬和音-IV)、ドミナント(属和音-V)、ドミナント7th(属七の和音-V7)、およびサブミディアント(下中和音-VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- C3** 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください**。出題は属調、下屬調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が **2,3,4** 或いは **6/8** のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード8

- A1** 三声のフレーズが2回弾かれますので、**最下声部を覚えて歌う(あるいは弾く)こと**。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

- A2** 長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、**完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)**に限られます。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパー tonic(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます
- A3** 上記の終止形における **3つの和音と転回形を答えてください**。出題は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパー tonic(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ

弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。

- B** スコアを見て、上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** 2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を教えてください。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は属調、下属調、平行調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音を与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについてディスカッションします。必要に応じて、検定員がヒントを与えることもあります。

4. 評価と採点及び違反行為

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文 54–55 ページをご覧ください。

(訳註：英文 157–158 ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略)

評価の配点

木管楽器対面実技検定評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲 1	30	20%
課題曲 2	30	20%
課題曲 3	30	20%
スケールとアルペジオ	21	14%
初見演奏	21	14%
オーラル テスト	18	12%
合計	150	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも 100 点 (66%) を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction (秀)	130–150
Merit (優)	120–129
Pass (合格)	100–119
Below Pass (不合格)	50–99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力—理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。又、パフォーマンスグレードと対面実技検定の間で評点の変更が行われることはありません。

評価の基準 (Marking Criteria)

英文 157 - 158 ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。検定員はこのリストに掲載されている各要素（大別して、音の高さ、拍感、音色、フレーズ、演奏力など）を通してみられる全体的な音楽的資質や能力を考慮して結果を出します。（詳しい和訳はピアノ要項に掲載されています。）

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード要項に掲載されていない曲を演奏する
- 当該グレード要項に掲載されているが、細かい部分で不適當である（例：楽章が異なる、リストからの選曲の組み合わせが正しくない 等）
- 声楽及びミュージカルシアターにおいて、無伴奏曲が極端に短い／長い場合。

これらに対する対応としては

- 書面での警告：主に細かい違反（例：同じリストから2曲選択）に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である 等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為をABRSMに報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。罰則なしの違反行為に関しての Appeals は受け付けられません。

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュールに沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙（合格者には合格証）は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込み者に送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。

フィードバックの期限など詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。

6. その他の検定

木管楽器奏者の為の ABRSM の他の検定としては、プレップテスト、ジャズ、パフォーマンスアセスメント、アンサンブル、及びディプロマがあります。詳細は www.abrsm.org/exams にてご参照ください。

プレップテスト

リラックスした雰囲気の中での、受験者を元気づけるプレップテストは、グレード テストの前の力だめしの良い機会です。ここでは次へのゴールが見えるばかりでなく、なんと合格証書ももらえるのです。

プレップテストでは音楽の初心者の評価—主に音の高さ、拍感、音色、演奏力、音楽の認識力—が行われ、音楽力、技術力の基礎を積み上げていけるように工夫されています。

内容

プレップテストには次の4つの分野があります。：練習曲、課題曲及び自由曲、ききとりゲーム

内容	出版名
練習曲 ：短い曲を3曲暗譜で演奏 練習曲は右の教材に収録：	Descant Recorder Prep Test Flute Prep Test Clarinet Prep Test
一曲目 ：右の教材に収録されているソロ又は 伴奏付の課題曲 又は 右の教材にある曲	該当楽器の Prep Test 教材 Party Time! for Flute (Alan Bullard) Party Time! for Clarinet (Paul Harris)
二曲目 ：伴奏付き自由曲 16-24 小節ほどの長さ	出版/未出版の楽譜を自由に使用可
ききとりゲーム ：次の4種類 a) 拍うち b) まねっこエコー c) 音あて d) なにがきけたかな？	問題例は該当楽器の Prep Test 教材に掲載

曲集

58 ページに掲載されている全ての曲は ABRSM から出版され、オンラインや代表事務局から購入できます。www.abrsm.org/shop

評価について

検定が終わるとすぐに、はげましのコメントが書かれた証書が検定員から手渡されます。ここでは点数や可否の判定はありません。検定員は以下の内容についてコメントします。

- ・音の高さ
- ・リズム
- ・音色のコントロール
- ・聴き取りの力

点数が書かれたコメントを希望する場合は、イニシャル グレードを受検することも可能です。

その他

- ・プレップテストは約 10 分です。（訳注：通訳が必要な場合はプラス 3 分）
- ・初めに椅子の高さを調節したり（検定員はお手伝いいたします）ためし弾きもできます。ピアノの種類などについては、英文 12 ページの「楽器について」をお読みください。
- ・「練習曲」には暗譜が必要ですが、その他の曲は楽譜をみて弾いてもかまいません。暗譜で弾く場合は必ず検定員用に楽譜を持参してください。
- ・自由曲にデュエット曲を選ぶ場合は、指導者など共演者を連れてくるのが可能ですが、検定員と一緒に弾くこともできます。
- ・通常 1 名の検定員によって検定が行われますが、まれに更に 1 名が同席する場合があります。
- ・日程や会場、検定料金などの詳しいことは www.abrsm.org/exambooking をご覧下さい。¥
- ・ABRSM は多くの生徒たちが最初に、身体の小さい方/子供用に特別デザインされた楽器(訳注：派生楽器と称する)をもって音楽の道を歩み始めることを十分に承知しております。私たちは検定においてのこれらの楽器に関して、www.abrsm.org/policies にて提示されている規定に沿った使用を許可しております。
- ・ **その他の木管楽器での受検**：プレップテストはオーボエ、バスーン及びサキソフーンでの受検も可能です。これらの楽器のテストは、評価及び全体の構成は同じですが、一部が異なります。受検者は短い練習曲、指定されたソロ課題曲、伴奏付の自由曲、そして三つのシンプルなオーラルテストに対応します。これらの練習曲、課題曲及びオーラルテストは、それぞれの楽器のテスト教材に収録されていますが、現在出版されていません。本の入手をご希望の方は、以下のウェブページをご参照ください。www.abrsm.org/syllabusclarifications

パフォーマンス グレード

ABRSM のパフォーマンス グレード (G1～8) は学習者の演奏力に特化し、それを披露する機会として設けられたもので、科目によってはイニシャルグレードも設定されています。受検者は、グレード、年齢に関係なく、どのグレードからでも受検可能です。詳しくは

www.abrsm.org/performancegrades

(訳註：グレード6以上は事前取得資格の必要有り)

パフォーマンス グレードについて

各パフォーマンスグレードでは、そのパフォーマンスに必要な基礎知識や理解がなされているかが総体的に評価されます。

これらの創造的なスキルは、楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、演奏プログラムの継続性、などの点が留意され評価されます。これらのスキルは受検者が次なるステップへと進み、ひいては他の創造的な分野での資格取得へと繋がっていくのです。

検定は次の5つの要素で成り立ちます。

- 4つの演奏曲／歌曲－課題曲リストから3曲と自由曲1曲
- パフォーマン全体の評価

これらの要素は等しく配点され個別に評価されます。

この検定は現時点ではオンラインのみにて受検可能です。受検者はワンテイクで演奏を録画し、ABRSM に送り評価を仰ぎます。

受検者／受検申込み者は、適切な会場設定と受検環境を用意する責任を負います。

グレード6以上のパフォーマンス グレードを受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ 或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。代替資格なども含め、詳細は www.abrsm.org/prerequisite をご覧下さい。

音楽理論

演奏家、作曲家、一般聴衆が幅の広い音楽力を身につけるには、音楽語法を理解し、精通することが不可欠です。書かれている記号と、音楽の要素との関係を理解し、それを翻訳し、実際の音としてどの様に表すかを学ぶことによって、その音楽の持つ意味をより深く経験できるのです。又、記譜法の知識なしでは、クラシック音楽家がレパートリーを理解したり、アンサンブルをしたりすることが、困難となるでしょう。それどころか、記譜法が存在しなければ、作品が後の世に受け継がれていくことも不可能だったにちがいません。その意味で音楽理論は演奏や作曲と綿密に結びついている、実用的な科目なのです。

ABRSM の音楽理論検定によって、学習者は：

- ・ 記号、用語など、西洋音楽の記譜法を理解し、
- ・ 音程、調性、スケール、和音など音楽の基本的な要素を理解し、
- ・ 均整のとれた、リズムパターンや、旋律或いは和声の構造を理解し、完成させることができ、
- ・ 理論の知識を理解し、楽譜の分析へと応用する事ができるのです。

次ページ以降の説明にあるように、受検者は、各グレードに準じて、音楽記号を自在に使い分けたり、音符の抜粋を完成させたり、音楽の要素に関する設問に答えることによって、能力を評価されます。

グレード5の事前取得

長年にわたる ABRSM の水準のひとつとして、グレード6以上の実技検定を受けるには、理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の理解が、不可欠だと考えるからです。（プラクティカル・ミュージシャンシップ、又はジャズのソロ演奏でのグレード5の取得もこの基準を満たすものとします。）

評価の仕方

理論検定は100点満点とし、66点以上を合格、80点以上を良、90点以上を優とします。

過去の問題

ABRSM の理論検定で過去5年間に出题された問題は、代表事務局または、オンラインで購入できます。www.abrsm.org/publications 全グレードにおける2009年度版以降の過去問題には、模範解答も出版されています。

プラクティカル・ミュージシャンシップ

ミュージシャンシップという言葉は、音楽能力の分野を幅広く網羅する概念です。この要項の目的に沿って言えば、「音で考える」能力と言えるでしょう。この力は内なる想像力をもって音楽をする－聴いて、演奏したり、歌ったり、読譜をしたり、即興をしたり－場面で発揮されるのです。

ABRSMのプラクティカル・ミュージシャンシップは、受検者に「音で考えて」、自発的な演奏をする力をつける機会を与えます。ほかの実技検定が、前もって周到に準備された演奏力が中心となるのに比べ、ここでは、その場で聴いたり、読んだりしたものに対し、直ちに弾いたり、歌うことによって、反応することが求められています。

プラクティカル・ミュージシャンシップの検定は、グレード毎に、音楽家の為のバランスのとれた、以下のような基本的な技能を包括します。

- ・ 音楽を内なる耳で聴き、再生する。
- ・ 最小限の準備で、楽譜を読み解く。
- ・ 短いモチーフを、内在する可能性に基づいて、展開する。
- ・ 書かれた音楽と、実際に演奏されたものとの、相違点を見つける

これらの能力をつけることによって、学習者はレパートリー演奏に必要な音楽を理解し、解釈するなど、音楽の語彙力をみにつけることができます。

グレード5の事前取得

グレード6以上の実技検定を受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ 或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の十分な理解が、不可欠だと考えるからです。

楽器

プラクティカル・ミュージシャンシップの検定は、声楽および、実技検定の全ての楽器で受検できます。声楽での受検者は、検定の一部で楽器も使用します（ピアノもしくは選択した楽器）

検定では

以下の場合には、1分程度の予見時間が与えられます。

- ・ 初見視奏/視唱
- ・ 即興演奏（グレード4から）
- ・ 初見による移調奏
- ・ 通奏低音

歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価の仕方

検定員は個々の問題での出来よりも、全体を通して評価します。

- A 優
- B 良
- C 合格
- F 不合格

例題集

ABRSM のプラクティカル・ミュージシャンシップ 模範試験例題集及び、指導書は、代表事務局または、オンラインで、購入できます。 www.abrsm.org/publications

ARSM (演奏)

新しいディプロマである ARSM は、全ての器楽、声楽の学習者が年齢に関係なく受検できます。ここでは G8 と DipABRSM の橋渡しとして、演奏技術と、それに関連するテクニックを伸ばす機会が提供されています。受検者がレパートリーを広げ、リサイタルプログラムの構成を考える上にも有用です。

ARSM の主な特徴

- 以下の要領で受検者は、バランスのとれた、多彩なプログラムを演奏します。
 - ・演奏時間：30 分
 - ・このうち少なくとも 20 分は ARSM 演奏レパートリーリストから選択
 - ・残りのプログラムは、グレード 8 と同じ或いはそれ以上のレベルの曲を受検者が自由選択。
- 楽曲演奏以外のテストはありません。
- グレード実技検定と同じ時期に行われます。
- 録画提出によるデジタル検定も可能です。
- ARSM は、資格のひとつとして証明書、プロフィール等書き加えることが可能です。

この ARSM を受検するには、G8 (又は代用資格) の事前取得が必要です。詳しくは www.abrsm.org/arsmdiploma を参照のこと。

ABRSM のシラバスは、随時更新されています。変更点は事前にウェブサイトでお知らせいたしますので最新版のサイトをご確認ください。 www.abrsm.org/exams

DipABRSM / LRSM / FRSM (演奏)

これらのディプロマは、年齢に関係なく全ての器楽、声楽の学習者が受検できます。その場での検定と、あらかじめ用意された論文／エッセイなどにより、音楽的な知識や理解に基づいた、受検者の演奏技術、コミュニケーション能力、研究能力などが示されます。全てのディプロマは次のレベル受検への必須条件となります。

主な特徴

●受検者

- ・リサイタルプログラムに基づく演奏
- ・あらかじめ、プログラム ノート (DipABRSM および LRSM) 又は提出論文 (FRSM) を作成
- ・リサイタルや、プログラムノート／提出論文の内容を中心としたヴィヴァ・ヴォーチェ (口頭試問) が行われます。

●短い無伴奏の初見曲：5分間の試弾ができます。(クイック スタディ)

●これらのディプロマは所定の期間と会場で行われます。

(訳註：日本ではグレード実技検定と同じ時期に行われます。)

●これらを、資格のひとつとして、証明書、プロフィール等の名前の後に書き加えることが可能です。

これらのディプロマを受検するには、各々のレベルでの事前取得が必要です。詳しくは

www.abrsm.org/diploma を参照のこと

その他のディプロマ検定

これらのディプロマ検定は、楽器／声楽の指導、指揮法の領域でも行われます。詳しくは

www.abrsm.org/diploma を参照のこと

現在ディプロマ検定内容の変更、改訂作業が行われております。現時点で、ここに記載されている内容の最新情報は、www.abrsm.org/diploma をご覧下さい。

曲目リスト (演奏順)

Exam programme & running order



氏名 Name TARO KAKEHASHI

科目 Subject Piano Grade 5

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

Year of syllabus _____

List*	Number	Composer 作曲者	Title 曲名
A	3	Handel	Toccatà in G minor
C	2	Hammond	Changing Times
B	1	Beach	Arctic Night

声楽のみ **Singers only:** unaccompanied traditional song: (無伴奏曲)

打楽器のみ **Percussion (Combined) only:** technical requirements on: (スケールアルペジオの楽器)

*Leave blank for Snare Drum, Timpani and Tuned Percussion

※スネアドラム、ティンパニー、音程のある打楽器記入不要